郡山シティーマラソン

一般10マイル

男子 大橋（東京都）初優勝
女子 桑原（AC須賀川）5連覇

29日に郡山市の開成山陸上競技場をスタート・フィニッシュに開かれた第23回郡山シティーマラソン大会で、メインレースの一般男子18歳以上10マイル（約16キロ）は東京都の大橋秀星が51分16秒で初優勝した。一般女子18歳以上10マイルは郡山市の桑原絵理（AC須賀川）が1時間1分55秒で優勝し、5連覇を果たした。郡山市出身の遠藤清也（NDソフトアスリートクラブ、学法石川高卒）ら3人が特別招待選手として小学生らと一緒にコースを駆け抜け、走る楽しさを伝えた。

一般男子18歳以上10マイルで初優勝した大橋

大橋、得意の後半加速

大会初出場の大橋秀星がメインの一般男子18歳以上10マイルで頂点に立ち、「自分らしい走りができた」と瞳を輝かせた。

序盤は昨年優勝した安西秀幸（安西商会）の後ろにつき、スパートをかける好機をうかがっていた。折り返し地点を過ぎ、得意の後半。徐々に加速し安西を振り切った。沿道の声援に手を上げて応え、トップでフィニッシュ。「追い風の中、いいタイムが出せた」と初めて臨んだ10マイルのレースの結果に満足していた。

専修大駅伝部の部長を務め、大学時代は関東学連選抜を含めて3度、箱根駅伝に出場した。現在は東京都内で会社勤めをしながら個人で競技を続けている。

今大会をきっかけに、全国の市民マラソン大会に出場する考えだ。公務員ランナーとして知られ、世界で活躍する川内優輝（埼玉県庁）らの名前を挙げ「実力ある市民ランナーの一角を担いたい」と意気込んだ。

桑原、圧巻2位に大差

一般女子18歳以上10マイルで5連覇した桑原絵理（AC須賀川）は「沿道の応援に背中を押された。楽しく走れた」と笑顔を見せた。

前半は向かい風でスピードが出ず、我慢の展開に。「後半が勝負」と自分に言い聞かせた。折り返し地点を過ぎると、一気にペースを上げた。1時間1分55秒でフィニッシュし、2位と4分以上の差をつける圧巻のレースを見せた。「ペース配分が良かった。後半に余力があり、スピードに乗れた」と振り返った。

須賀川二中、清陵情報高、京都光華女子大の陸上部で中長距離と駅伝の選手として活躍した。地元に戻ってからは、忙しい仕事の合間に、自宅近くや鏡石町の鳥見山陸上競技場などでトレーニングを重ねている。「努力の成果が出てうれしい」と充実した表情で話した。

一般女子18歳以上10マイルで５連覇を飾った桑原

高校女子5キロで優勝した久我

昨年2位の雪辱果たす
高校女子5キロの久我

○…高校女子5キロは久我あゆな（尚志高3年）が19分42秒で優勝した。ラスト1キロから徐々にペースを上げ、2位と約20秒差でフィニッシュ。思い通りのレース展開で、2位だった昨年の雪辱を果たした。陸上部に所属し、仲間と競い合う日々を送る。「高校最後の大会で良い結果を残したい」と表情を引き締めた。

小学女子6年2キロで優勝した三科

スタート転倒 それでもトップ
小学女子6年の三科

○…小学女子6年2キロは三科文（熊倉ミニバス、熊倉小）が7分12秒で制した。スタートで転倒したが、気持ちを切り替え後方から選手をどんどん抜いていった。3年生で出場してから4年連続の優勝を果たし「風を感じながら走るのが楽し
中学生になっても出
トップを目指す」と
歯を見せた。

特別招待3選手 古里のレース楽しむ

特別招待選手の遠藤清也（NDソフトアスリートクラブ、学法石川高卒）、高本真樹（駒沢大陸上競技部、学法石川高卒）、小沢夏美（白鷗大陸上競技部、田村高卒）の3人は郡山市出身で市民ランナーと古里のレースを楽しんだ。

一般男子10キロの部に臨んだ高本は「応援の声が大きく、力になった。参加者と話しながら走れて楽しかった」と笑顔を見せた。東京五輪出場
指しており、中高生
ナーに「一緒に世
舞台で活躍できるよ
張ろう」とエールを
た。

特別招待選手として参加者と一緒に走った（左から）遠藤、高本、小沢

斎藤、中村が宣誓

○…開会式では大会長の品川萬里郡山市長、過足満雄郡山商工会議所副会頭、坂本守郡山市体協会長、鈴木孝雄大東銀行社長があいさつし、
剛司郡山市議会議長

力強く選手宣誓す
藤（左）と中村

がくと君と撮影

○…福島民報社は会場に民報ブースを設け、参加者と市のイメージキャラクター「がくと君」の撮影会を開いた。
に撮影した写真を記
外新聞として印刷
日、自宅に届ける。

楽都郡山
KORIYAMA CITY